

曲まがり屋やの見学けんがく

けい君たち三年生は、今日、社会科の校外学習で那珂市菅谷にある「曲がり屋」に見学に来ています。多くの三年生は、じっさいに曲がり屋に来るのは、はじめてのようです。

「近くで見ると大きいね。」

「屋根には、わらのようなものがつんであるよ。」

「縁側が広くて家の中は風通しがよさそうだね。」

「今の、ぼくたちの家とはずいぶんちがうよ。」

みんなは、口ぐちに、思い思いの感想を言い合いながら、曲がり屋の中に入っていました。

けい君もわくわくしながら、大きな玄関口をくぐっていきます。

「なんかけむりのおいがするな。それに、少しあたたかいな。」

けい君は、入り口の大きな木戸をくぐりながら、ふしぎそうに中の様子

曲がり屋

昔から伝わる民家の建て方のひとつ。農業に使う牛や馬をかう部屋も母屋の中にある。

土間^{どま}
住宅^{じゅうたく}の中で、地面^{めん}のままのところ。日本^{こわい}古来の民家^{みんか}でみられる形式^{けいしき}で、土足^{どそく}でつかう場所として、げん関^{かん}や台所^{だいどころ}、部屋^{へや}の一部としても使った。

子をさぐりました。

「かまどを見るのははじめてかな？」

よく見ると、入り口のおくの
広くなっているところで、だ
れか一人立っていました。

「おどろかせてごめんね。今
日は来てくれてありがと
う。わたしはここで、ボラ
ンティアでかん理人^{りにん}をして
いる者だよ。ここは、土間^{どま}
といって、玄関であり、台
所であり、作業をする場所
でもあるんだよ。火をもや
しているのは、かまどと



「いって食べ物にたきするところだよ。」

と、おじさんが教えてくれました。

「えーっ、すごい。玄関に台所があるんだ。しかも、ゆかは土なんだね。」

と、けい君が言いました。お話を聞いていた子どもたちも、感心かんしんしたよ
うな声を上げました。

「台所だけではないよ。入り口の右がわに、もう一つ部屋へやがあるだろ、
だれの部屋かわかるかな？」

と言いながら、おじさんは、入り口わきの部屋を指ゆびさしました。

みんなは首をひねって、顔を見合いました。すると、おじさんが、

「この部屋はね、家であって馬たちの部屋だったんだよ。」

と、言いました。そして、次のようなせつ明をみんなにしてくれまし
た。

茅葺き屋根

ススキやチガヤ

という植物を屋

根の材料ざいりょうとして

重ねて使った屋

根の作り方。

「今、ここにある曲がり屋は、那珂市戸崎なかしとぎきにあったじっさいの農家のうかだっ

たんだ。その農家全体を、茅葺家屋かやぶきかおくをふくめて、一度ばらばらにして、ほぞんのために、一の関せきため池親水公園しんすい内へうつし、もう一度組み立て直したんだよ。曲がり屋とは、人が住すむところと、馬小屋、物おきが一体いったいとなった東北地方とうほくちほうと茨城県の一部に見られる、寒さのきびしい地方の代表的な家のたて方なんだよ。」

おじさんは、このようにせつ明あとした後、みんなの顔を一度じっくりと見わたしました。そして、にっこり笑わらうと、最後さいごにこんなお話をしてくれました。

「昔の人たちは、自分たちと一しよにはたらい



てくれる動物たちのことも、家族の一員として考えたんだよ。そして、身の回りの全ての物を何でも大切にしたんだ。だから、この家の中にはむだな物は何一つとしてない。一つ一つの物に、使う人のくふうや思いがこめられているから、わたしはいつまでも大切にしたいと思っているんだよ。今日は、そんな昔の、生活のくふうを、たくさん見つけて行ってね。」

おじさんの話を聞き終わると、けい君は、広い家の中をぐるっと見わたしました。すると、けい君たちは、今までただの古い道具にしか見えていなかった物たちが、何だかとってもがんじょうで、どっしりとした宝物にみえてきました。